

縁起物の「亀」をモチーフにした作品▶



▲皆で作業を進める時間が心の癒やしにつながっています。



▲お針子サークルのメンバーの皆さん

みんなのた場

サ一ク仲問
96

お針子サークル

心を癒やす人形づくり 会話弾ませ楽しい時間

雄勝地区のコミュニティー施設、オーリンクハウスを拠点に活動している「お針子サークル」は地元的女性10人によるサークルで、吊るし飾り用人形を中心に制作しています。

結成のきっかけは、昨年5月に同施設で開かれた「戦後70年イベント」です。平和への思いを込めた球作りのワークショップの参加者たちで活動をスタートしました。

は「吊るし飾り用人形」です。古くは着物や布類を活用して、金魚やフクロウ、姫ダルマ、椿の花等、さまざまな種類の作品を仕上げます。

8月25日(木)に行った活動のテーマは、縁起物の「亀」です。まず丸い発泡スチロールを半分に切って色鮮やかな布をかぶせ、甲羅部分を作りました。そこに手足と頭をつけると、つぶらな瞳が愛くるしい「亀」が出来上がりました。

べて、短時間でたくさん作品が作れることが大きな特徴です。同じ人形でも表情がそれぞれに違うことも魅力の一つではないでしょうか」と話します。

制作現場にお邪魔すると、メンバーの皆さんは会話を花を咲かせながら、和気あいあいとした雰囲気の中で作業を進めていました。メンバーのほとんどが震災の津波で自宅を流失し、中には家族を亡くした方もいます。皆で集まり、和やかな時間を過ごすことが、心の支えや癒やしにもつながっているようです。

永沼あけみさん(54)は「皆でわいわいと語り合いながら制作活動に励む時間がすごく楽しいです」と笑顔を見せます。永井留美子さん(62)は「家に一人いると、ぼんやりといろいろなことを考えてしまうので、まず皆で集まる場所があるということにうれしさを感じています」と話していました。

文化財(たんぽう)
91

昭和五五年十二月指定文化財―天然記念物―

吉祥寺と龍泉院のイチヨウ

生涯学習課



▶吉祥寺のイチヨウ

高木の吉祥寺参道入口に2本のイチヨウが立ち並んでいます。向かって右側は樹高約23m、幹周約6m、枝張東西約27m南北約22mで、樹齢は推定35年とされ、市内第1位を誇る巨樹です。左側は、樹高約28m、幹周約4m、枝張東西約17m南北約18mで、市内第3位の大きさです。

市内第2位のイチヨウは水沼の龍泉院境内にあり、樹齢およそ300年、樹高約25m、幹周約5m、枝張東西約23m南北約26mの巨樹です。



▲龍泉院のイチヨウ

樹木は気候や環境の変化によって水や栄養を十分に吸収できずに樹勢が弱まり、折損することもあります。平成6年、吉祥寺のイチヨウの直径約90cm長さ15mの枝が付け根から抜け落ちてしまい、樹木医によって、枝抜き痕に腐食防止剤を塗布する等の治療が施されました。平成24年には、枝が成長しすぎて自重による折損の危険性があるとして、枝の剪定と防腐剤塗布の処理を行いました。龍泉院のイチヨウも、樹皮が剥

落して根元に空洞ができたため、剪定と防腐剤の塗布、腐葉土や堆肥等を加えて土壌改良しました。こうした回復治療の結果、晩秋には見事な黄葉を見ることができそうです。

天然記念物等の管理は所有者が行うことになっていますが、市では補助金等で保護に努めています。

キラッとパチリ

自らの経験を復興に

昨年4月に着任した飯田さんは家屋評価や、固定資産税等の賦課・課税事務を担当しています。赴任前の1年間は、気仙沼市にある県の土木事務所勤務しており、「派遣元での業務経験をより生かしたい」と石巻市への

派遣に手を挙げました。釣りが趣味ですが、島根県内陸の出身で、海沿いに住むのは初めてです。毎週末、海釣りに出掛ける等、石巻での生活を楽しんでいるようです。業務で心がけているのは、市民の皆さんの言葉にしっかり



資産税課

飯田哲也さん 27歳

東京都から派遣



道路課

平本賀也さん 45歳

京都市から派遣

り耳を傾けることで、「信頼関係を大事に業務に臨みたいです」と話していました。

平本さんは今年4月に着任し、道路改良工事の設計・監督業務に当たっています。震災後の道路工事は、復興とともにさらに安心安全なまちをつくるためです。

「これが本来技術者が目指すべき仕事」と考え派遣を申し出ました。石巻は人柄が穏やかで、食べ物もおいしく過ごしやすいと感じているそうです。同時に沿岸部の姿や市民の皆さんと対話の中で震災の被害を実感し、復興への思いを強めました。

「責任感を持って積極的に動きます。全ての人が安全に暮らせるまちになってほしいです」と話していました。

まちの話題

雄勝地区



8月11日(木・祝)
大須漁港

浜の味と人の魅力存分に

震災支援への感謝と復興の願いを込めた「大須浜祭り2016」が開催されました。ステージには地域の皆さんによる踊りやカラオケ等が次々と登場し、屋台では獲れたてのウニやホタテが炭火焼きで振る舞われ、訪れた人々を楽しませました。夜には灯ろう流しのほか、フィナーレでは花火大会が行われ、1,000発の花火が夏の夜空を焦がしました。

河北地区



9月10日(土)
河北地区一帯

地域挙げて クリーン作戦

「ビューティフルかほくクリーン作戦」と銘打った地域美化活動が河北地区の約40カ所で一斉に行われました。47回目となった今回も、早朝にもかかわらず子どもからお年寄りまで約2,000人が参加して、ごみ拾いや草取りをしながらコミュニケーションを深めました。仮設住宅団地でも協力して活動し、参加した皆さんは「地域も気持ちもスッキリしました」と笑顔で語っていました。

桃生地区



8月28日(日)
桃生総合支所

強い団結で 安全な地域へ

市消防団桃生地区団の演習が行われ、6分団計210人が操法競技と分列行進で消防技術とチームワークを発揮しました。開会式で佐々木卓也団長は「住民の生命と財産を守るため一致団結し、期待に応えていきたい」と訓示を述べました。操法競技では、どの分団もきびきびとした手順で放水を行う等、高い訓練成果を披露し、地域の防災・防火に向けて士気を高めました。

河南地区



8月15日(月)
旧北上川河川敷の和渚水辺の楽校

地域を彩る 幻想的な光

盆の恒例行事「和渚夏まつり」が開かれ、河川敷に設置された約6,500個の灯ろうの光が幻想的な雰囲気を漂わせました。長年、ご先祖様を供養する行事として行われており、東日本大震災後は復興への願いも込めています。夜が訪れる頃には赤、青、黄色等の柔らかな光が広がり、フィナーレでは灯ろうと花火、さらに和太鼓が共演して祭りを締めくくりました。

牡鹿地区



8月21日(日)
牡鹿半島一帯

自然満喫しながら サイクリング

順位を競わず、チーム全員で完走を目指すサイクリングイベント「第2回いしのまきジェントルライド」が、牡鹿半島を舞台に行われました。岩手県から神奈川県までの各地から約90チーム400人が参加し、豊かな自然を体全体で味わいながらペダルをこぎました。おしかのれん街を経由する90kmのロングコースも設けられ、チェックポイントでは食事や名産品の買い物、観光を楽しみました。

北上地区



7月23日(土)
高齢者生活福祉センターはまぎく

楽しみながら 革細工に挑戦

北上公民館主催の革細工教室が7月から9月まで3回にわたり開かれました。初回は女性12人が受講し、講師の藤原友紀子さん(仙台市在住)から革のならし方や型紙作り、手縫い加工等の指導を受けた後、好みの革を選んで通帳入れを作りました。受講者からは「難しかったけれど、上手に作れました」「次の作品も楽しみ」等の感想が聞かれました。8月、9月はバッグ作りに取り組みました。

石巻地区



8月28日(日)
中瀬公園等

音楽でまちを 盛り上げ

「トリコローレ音楽祭」が中瀬公園をメインに14会場で開かれました。13回目の今年は、これまでで最も多い158団体740人が出演し、プロアマの垣根を越えて演奏される多彩な音色がまちにあふれました。来場者も過去最多の8千人となり、各会場では演奏者と観客が一体となって熱気ある夏の空間を作り上げました。今年は高校生ボランティアも初参加して、裏方として活躍しました。

石巻地区



8月21日(日)
石巻港雲雀野中央ふ頭

世界最大の探査船 「ちきゅう」入港

国際深海科学掘削計画の主力船として地球深部探査を行っている「ちきゅう」が入港しました。それを記念して第15回港湾感謝祭が開催されました。ちきゅうは全長210m、船底からの高さは130m、約5万6千トンという世界最大の探査船です。船内見学に参加した人たちは、研究区画での掘削時に使われるドリルを眺め、海底のさらに下の世界に思いをはせていました。